

令和3年度あま市自殺対策ネットワーク会議次第

令和4年3月7日

1 報告事項

令和2年度あま市自殺対策ネットワーク会議録(書面)要旨について【資料1】

※令和2年11月20日配付

2 議題

(1) あま市自殺対策事業の推進について【資料2】

(2) あま市自殺対策関連事業

令和2年度取組結果及び令和3年度進捗状況について【資料3】 【資料4】

配付資料

令和3年度あま市自殺対策ネットワーク会議 説明要旨

【資料1】 令和2年度あま市自殺対策ネットワーク会議録(書面)要旨

【資料2】 あま市自殺対策事業の推進について

【資料3】 あま市の自殺に関する統計

【資料4】 あま市自殺対策関連事業 令和2年度取組結果及び令和3年度進捗状況

【参考資料1】 あま市自殺対策ネットワーク会議 要綱

【参考資料2】 あま市自殺対策ネットワーク会議 委員名簿

【参考資料3】 困ったときの相談窓口2021年度

リーフレット「快眠で心身を健康に」

啓発シール

令和3年度あま市自殺対策ネットワーク会議 説明要旨

1 報告事項

令和2年度あま市自殺対策ネットワーク会議録（書面）要旨について【資料1】

※令和2年11月20日配付

令和2年度のネットワーク会議の議題に対して、委員から各2つのご意見をいただきました。

議題（1）あま市自殺対策計画及び各種取組の進捗状況について

① 「計画の推進にあたり、市内の2つの精神病院と自殺計画との関りを具体的に明記されていくことが望ましい」というご意見について

➤ 予防から継続的に取り組む必要があり、専門機関と課題分析を行うなど、施策推進のための情報共有を図ることとした。

② 「当初策定された自殺対策計画が、新型コロナにより周囲環境も大きく変化しているので、コロナ禍での計画推進の在り方を検討する必要があるのではと感じた」というご意見について

➤ コロナ禍での自殺者数の増加が懸念され、令和2年度の新たな取組について精査し、必要な取組については今後も実施することとした。

●令和2年度の取組

- ・市長による市民向けの自殺予防に関するメッセージを発信。
- ・相談窓口の周知啓発

議題（2）2年度の重点施策について

① 「人材育成のための講座の開催や普及啓発のためのリーフレットの配布を行ったことにより、どのような結果・効果があったのかを踏まえ、次年度の計画に反映していくことが望ましい」というご意見について

➤ 人材育成として、ゲートキーパー養成講座の実施回数を拡大し、多くの市民や市職員の自殺対策の理解を促進していくこととした。

② 「高齢者が重点施策の一つとしてあるが、今後も必要と考える。コロナ禍では雇用問題や収入減による心理的ストレスが年代問わず考えられ対策が必要と感じた」というご意見について

➤ 高齢者の集う地域のサロンでの周知啓発と民生委員との連携の継続。

2 議題

(1) あま市自殺対策事業の推進について【資料2】

- ・平成30年3月に「あま市自殺対策計画」を策定。
- ・平成30年度から令和4年度までの重点施策
関係機関等との連携・ネットワークの強化、人材育成、市民への普及啓発、ハイリスク者に対するアプローチ・支援、児童生徒のSOSの出し方に関する教育について取り組むこととなっている。
- ・自殺対策ネットワーク会議について（資料2裏面3の自殺対策推進体制図）
各分野からの専門的な意見をいただくとともに、施策実施のための情報交換を行う。
ネットワーク全体のみならず、各団体と個別のケースを通じて情報交換を行うため、行政、医療・福祉・保健機関等ではなく、保健所、医師会、民生児童委員会等の団体で実施。
本部会で検討された各施策をPDCAサイクルにより適切な管理をし、実行・評価・改善を行う。
実際の事例を通して課題の提案を行うことで、各立場で何ができるのか、どのような連携ができるのか意見をいただき、情報交換・連携強化に活用できるネットワークとなるような体制づくりを目指す。

(2) あま市自殺対策関連事業令和2年度取組結果及び令和3年度進捗状況について

【資料3】 【資料4】

【資料3 1・2ページ】

あま市の自殺者数と自殺死亡率は、平成28年から令和2年の平均で自殺者数が15.4人、自殺死亡率（10万人対）が17.3となっている。平成30年から減少傾向であったが、令和2年は自殺者数24人、自殺死亡率26.9と増加に転じた。自殺死亡者全体では、20～59歳で52%、60歳以上で35%を占めている。

【資料3 3ページ】

職業別自殺者割合では、令和2年は「被雇用・勤め人」29.2%、「年金・雇用保険等生活者」、「その他の無職者」の割合がそれぞれ25%となっている。
原因別で見ると健康問題が多く全体の5割を占めている。

【資料4】

あま市の自殺対策関連事業令和2年度取組結果と令和3年度進捗状況
重点項目より

①関係機関等との連携・ネットワーク強化

1 関係機関等との連携・ネットワークの構築・連携強化

令和2年度：担当者が民生児童委員協議会に参加し、相談ケースがあれば対応できる関係を構築した。

令和3年度：地域の薬剤師会を通じて、市内調剤薬局にリーフレットの配置により、不眠やストレス等に関する正しい知識の普及啓発を依頼した。

②気づきのための人材育成

1 職員の資質向上

令和2年度：職員の資質向上のため、新規採用職員等へのゲートキーパー養成講座について検討した。

令和3年度：新規採用職員、令和3年4月以降に採用された職員を対象にゲートキーパー養成講座を実施した。

2 民生委員・児童委員等におけるゲートキーパーの養成講座

令和2年度：民生児童委員に対しゲートキーパー養成講座を実施予定も、緊急事態宣言のため中止となる。

令和3年度：民生児童委員等を対象にゲートキーパー養成講座を開催予定している。

③市民への普及啓発

2 アルコール問題に関する啓発

令和2年度：令和2年度の「健康福祉まつり」が中止となったため、アルコールパッチテストやアルコールに関する啓発方法について検討した。

令和3年度：令和3年度も「健康福祉まつり」が中止となったため、成人式会場の外でアルコールパッチテストを希望者約50名に試し、約150名にアルコールに関する啓発を実施した。

④ハイリスク者に対するアプローチ・支援

2 庁内相談窓口の充実・相談場所の周知

令和2年度：特別定額給付金申請窓口で保健師による「困ったときの相談窓口」の配布、こころの相談啓発カードを庁内手洗い場に設置、市公式ウェブサイトやケーブルテレビでの市長メッセージの配信をした。

令和3年度：医師・看護師・保健師などによる24時間体制での電話相談「あま安心ダイヤル」の開設をした。

郵便局との包括連携に関する協定に基づき、市内設置のポスト

に「自殺予防啓発シール」を貼り、自殺防止と相談窓口の周知・啓発をした。

まとめ

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、令和2年の自殺者数の増加が懸念されていたこともあり、市長から市民に向けた自殺防止に関するメッセージの発信や各種相談窓口の周知・啓発に努めました。

令和3年も感染の収束がみられない状況にあり、昨年に引き続き地域での見守りや啓発によるネットワーク強化に向けて民生委員協議会に保健師が参加するなど、個別の情報交換や連携を図っています。また、新たな取り組みとして、薬剤師会の協力で市内調剤薬局での不眠やストレス等に関する正しい知識の普及啓発とともに自殺予防の啓発のためのリーフレット配布や郵便局との包括的連携に関する協定に基づき、市内設置のポストへの「自殺予防啓発シール」の貼付により、自殺防止の相談窓口の周知・啓発を実施しました。

今後は当事者や課題と向き合いながら自殺対策の実施に努めてまいります。事例によっては、市民、行政、関係機関・団体等と更なる連携・協働が必要となることが想定されることから、地域でのネットワークとなる体制づくりの強化を目指したいと考えておりますので、ご協力よろしくお願いたします。